

# 第 40 回原子力発電問題 全国シンポジウム 2025 京都

## プログラム

司会者あいさつ

10:00 山田耕作・大倉弘之（日本科学者会議京都支部）

開会あいさつ

10:03 前田耕治（日本科学者会議京都支部代表幹事）

第 1 テーマ〈原発の危険性と廃棄への道〉

〔午前の報告〕

10:10 ①木原壮林（京都工芸繊維大学名誉教授）

「原発依存をやめ、自然エネルギーに転換しよう！」

11:10 ②乾康代（元茨城大学教育学部教授）

「東海村と植民地主義開発—日本の原子力開発黎明期の特質—」

お昼休憩 11:50 ～

〔午後の報告〕

12:50 ③花島進（元日本原子力研究所）

「原子力を支えるべき基礎技術

—技術力の問題を東海第 2 原発他の事例から見る—」

13:30 ④山本雅彦（日本科学者会議原子力問題研究委員会委員長）

「原発廃棄物のリサイクルと廃炉について」

第 2 テーマ〈放射線被ばくの被害の実情と課題〉

14:10 ⑤市川章人（日本科学者会議京都支部）

「住民防護対策の相次ぐ後退—翻弄される住民の命と自治体—」

14:50 休憩

15:00 ⑥大倉弘之（京都工芸繊維大学名誉教授）

「異常増加を続ける福島甲状腺がん、隠され続ける被ばく影響」

15:40 ⑦山田耕作（京都大学名誉教授）

「福島原発事故による内部被ばく被害の実情」

—全てのヒバクシャに被ばく健康手帳を配布せよ—

総合討論

16:20 ～

16:40 討論のまとめ

16:50 閉会あいさつ 山本雅彦（日本科学者会議原子力問題研究委員会委員長）

終了 17:00

龍谷大学深草学舎 21 号館 301 教室

京阪本線深草駅下車徒歩 10 分

京都市営地下鉄くいな橋下車徒歩 15 分

## Zoom で参加される方

下記の URL から、Zoom 参加の登録をお願いします。

[https://us06web.zoom.us/meeting/register/TldEnemIQxWiH-QVL-f1mw](https://us06web.zoom.us/join/https://us06web.zoom.us/meeting/register/TldEnemIQxWiH-QVL-f1mw)



資料代 500円

8/24

10:00 ～ 17:00

写真は高速増殖炉もんじゅ（2024 年 8 月）

主 催：日本科学者会議原子力問題研究委員会 <https://jsa.gr.jp/commitee/genshi.html>

共催・連絡先：日本科学者会議京都支部 E-mail: [board@jsakayoto.sakura.ne.jp](mailto:board@jsakayoto.sakura.ne.jp)

☎ 075-256-3132

# 第 40 回原子力発電問題 全国シンポジウム 2025 京都

原発のない社会づくりのための検証と展望…ご参加をお願いいたします。

日本科学者会議（以下、JSA）は、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえて、第 42 回定期大会決議（2011 年 5 月 29 日）で「東電福島第一原発事故を教訓に原発に依存しない社会をめざそう」、また、第 43 回定期大会（2012 年 5 月 27 日）で「原発のない社会を実現するために国民的共同を進めよう」などの声明を発出しており、この言葉をキーワードとして、今回のシンポジウムのテーマを作成しました。

その後、全国的に原発のない社会づくりをめざして、JSA 会員が①原発再稼働を阻止する運動と裁判・知見、②核のゴミ（汚染処理水を含む）の処理処分や廃炉、③原発事故時の避難防災、④気候危機と原発再稼働の問題、⑤放射線被ばく（がんの発症など）、⑥教科書副読本の問題、⑦核燃料サイクルなどにとりくみ、科学的検証に基づいて未来への展望を発表してきました。

昨 2024 年元日に能登半島で地震・津波が起こったあと、電力移出地元（福井県）や電力受益圏（関西・東海圏）の住民はこれらの問題にさらに深い関心を持つようになりました。

今回のシンポジウムでは、専門家が論拠を明らかにし、規範意識を持って、多角的に各論を述べるとともに学際的総合的な展望を発表します。市民や未来を担う子どもたちとの対話と討論の場となることを期待します。

2025 年 7 月 14 日

JSA 原子力問題研究委員会

JSA 京都支部



美浜原子力発電所（2024 年 8 月）

第 40 回原子力発電問題全国シンポジウム 2025 京都の  
参加申込みは Google フォームからお願いします。

<https://forms.gle/Hc4UfHN5wEEDPyjf6>

